青森県代表の誇りを胸に

▶ Camera report 2012.10.7

第23回全国消防操法大会

全国から地方大会を勝ち抜いた消防団員が集い、消防用資機材の取り扱いや操作の基本技術について、その正確性や迅速性を競い合う全国消防操法大会。

十和田市消防団第５分団が出場し、県代表として堂々とした操法を披露した。

市消防団の念願！ ポンプ車の部初出場

全国の消防団員が目標とし、出場を熱望する大会、「第23回全国消防操法大会」が10月7日、東京都江東区の東京臨海広域防災公園で開催され、ポンプ車の部青森県代表として十和田市消防団第5分団（平舘龍太郎分団長）が出場した。選手たちは、4月下旬から十和田消防署員の指導のもと、市総合体育センター駐車場で毎日のように早朝訓練を行い、技術を高めてきた。「春とは全然違うチームになった」と、関係者は話す。訓練の積み重ねが技術を高め、士気を高めた。そして何よりもチームとしての絆が深まった。

8月に行われた県大会では正確・迅速な操法を見せて優勝。全国大会への切符を勝ち取った。

2年に1度開催される全国大会に市消防団は、過去に2度小型ポンプの部に出場しているが、ポンプ車の部では初出場。市消防団の念願がかなった。

自己ベストを出そう

秋の空は移ろいやすい。前日まで暑いくらいの陽気に包まれていたが、全国大会当日は一変、小雨が降る肌寒い天候の中で開会された。前夜から降り続く雨の影響で会場の足場が滑り、力を十分に発揮できないチームもあった。

十和田市の出場順は24チーム中23番目、長い待ち時間の中で空とにらみ合う時間が続いた。しかし、午後になると雨が上がり、青空が広がる。これで絶好のコンディションで操法を行える。選手たちに自然と笑みが浮かんだ。

出場時間が近付くにつれ、選手たちに緊張感が漂い始める。「優勝よりも自己ベストを出しに行きましょう」チームのムードメーカー・平舘龍徳（たつのり）さんが笑顔を見せながら声を掛ける。その一言で雰囲気が変わった。選手たちの間に笑顔が広がり、冗談を言い合う余裕が見られる。

会場入り前には関係者全員で円陣を組み、最終確認を行いながら士気を高める。

「十和田市消防団、ただ今からポンプ車操法を開始します」。平舘指揮者の号令のもと各員が機敏な動きで自分の役割を正確に行う。1番員が筒先を背負い、ホースを持って約60m先の火点に向かい全力疾走。2番員もホースを持って続く。ホースとホースを確実に連結し、「放水始め」の合図後に筒先から放たれた放水は見事火点に命中。続く第2線の放水も命中。「よし！」十和田市から駆け付けた約50人の応援団からどっと歓声が湧き起こる。

火点に命中したからといって気は抜けない。放水終了後の資機材の収納や身体、服装の点検など終了報告までの一挙手一投足に審査員の目が光っている。

指揮者の終了報告まで約15分間の操法。結果は175点。入賞となる上位10チームには0・5点足りなかった――。

十和田市を守る

入賞は僅差で逃したものの全国上位レベルの操法を見せた十和田市消防団。市消防団の中沢豊美団長は「市民の皆さんは士気と技術の高い消防団に守られています。安全・安心を目指す本市にとって、今回の消防団の活躍は心強いことです」と、話した。

東日本大震災以降、地域の事情に精通している消防団の重要性が一層増してきている。その活動は、火災時の消火活動、災害時の救助活動・水防活動など多岐にわたるが、消防団員は「自分たちのまちを守る」その一心で多忙な活動を行っている。

われわれ市民は、旺盛な士気と高度な技術を持った消防団によって安全・安心が守られている。そのことを心に留めておきたい。

1「頼むぞ」仲間からの期待を背に受け、火点に向けて走り出す。
2 わずか５ｃｍの白線に合わせて整列。
3 操法開始前。緊張感を漂わせながらも毅然とした表情を見せる。
4 小山田市長が選手たちを激励。選手たちにとって大きな力に。
5 出場が近付くと雨雲が去り、鮮やかな日差しが選手たちを照らす。
6 ２つの火点に見事命中。２本の放水線が見事な弧を描く。
7 会場に掲げられた約11ｍののぼり旗が選手たちを勇気付ける。

全国の舞台で活躍した選手たち

十和田市消防団第５分団

指揮者
平舘龍徳（ひらだてたつのり）
（29歳）
六日町

1番員
成田政彦（なりたまさひこ）
（37歳）
六日町

2番員
工藤良一（くどうりょういち）
（40歳）
六日町

3番員
古舘弘崇（ふるだてひろたか）
（28歳）
泉田

4番員
竹島大志（たけしまひろし）
（37歳）
相坂

補助員
佐々木英明（ささきひであき）
（37歳）
大和

Interview —— Captain 工藤良一

わたしたちは、野崎智洋（のざきともひろ）さん（26歳・一本松）と竹ヶ原武教（たけがはらたけのり）さん（38歳・大和）を加えた８人（※）で当初から全国大会の入賞・優勝を目指し、春からどこにも負けないくらいの訓練をしてきました。日頃の訓練の蓄積が今につながったと思います。

大会では、会場の雰囲気に少しのまれていたかも知れませんが、普段どおりの力は出せたので悔いはありません。

今後は、今回培った経験を生かし、消防団活動を行っていきます。若い人たちにどんどん消防団に入ってもらい、一緒にまちを盛り上げていけたらいいですね。

※野崎さんと竹ヶ原さんは補欠として登録。野崎さんは開会式で旗手を担いました。